

2月26日、3月30日(協議会)開催  
審査した内容(議案1件、陳情2件、報告事項11件)

陳情第34号 今泉クリーンセンターを候補地とする生ごみ資源化施設の整備を強行しないことを求めることについての陳情

本陳情の要旨は、鎌倉市・逗子市・葉山町ごみ処理広域化実施計画(素案)に、今泉クリーンセンターを候補地とする生ごみ資源化施設整備の方針が示されたが、当該施設についてはさまざまな懸念があり、地元住民を含む多くの鎌倉市民の理解を得ているとは言えないことから、市が住民の声を無視して施設整備に踏み切ることのないよう強く要望するものです。市の説明によると、本市が計画している施設と同規模以上の好気性微生物発酵処理施設が安定的に稼働していること、施設整備に当たっては、まずは小規模施設の整備から実施し、資源化の確実な処理方法や効率的な運営、臭気対策等の十分な確認を行い、本市にとって最適な施設運営方法を見極めた上で、施設を増設していきたいとのこと。委員会では、「今泉、今泉台、岩瀬の3町内会にはこれまで迷惑を掛けてきており、また、現在さまざまな説得を続けている中、生ごみ資源化施設が整備できない場合は、その分は自区外処理をせざるを得ないといった本市のごみ処理の考え方については、失望するとともに憤りを感じている」などの意見が出され、総員の賛成により採択されました。

2月28日、3月3日、10日開催  
審査した内容(議案7件、陳情2件、報告事項10件)

報告事項 支所における収納業務の見直しについて

市は、市県民税、国民健康保険料といった収納業務(※)について、約1年間の周知期間を設けた後、令和3年(2021年)3月31日をもって支所窓口における取り扱いを終了することです。収納業務については、銀行や郵便局などでの口座振替や窓口払い、コンビニエンスストアによる収納代行など、さまざまな代替手法が普及しており、業務の効率化や現金管理におけるリスクの低減が図れると判断したとのこと。委員会では、「利用者が困ることがないように丁寧な周知を求める」「コンビニなどが遠い地域はないことを確認した上での判断か」「支所が本来持つ、地域の方とのコミュニケーションという機能については今後どう保持していくのか」といった疑問を行い、市の考え方を確認した後、報告事項について了承されました。



市のホームページにアクセスできます

※詳細は市ホームページ、支所で配布しているチラシから御確認いただけます。

観光厚生常任委員会

常任委員会

総務常任委員会

建設常任委員会

このほかに、新年度予算関係議案の予備審査を行いました。

教育子どもみらい常任委員会

2月27日開催  
審査した内容(議案2件、請願1件、報告事項12件)

報告事項 鎌倉駅西口駅前広場整備の現状について

鎌倉駅西口駅前広場については、市民、来訪者が共存できる快適な駅前環境を整えるため、令和元年度(2019年度)内の供用開始を目指して整備工事を進めてきたものの、令和元年(2019年)9月、10月に関東地方に上陸した台風15号、19号による影響で、工事期間延長の必要が生じたとのこと。なお、延長後の工期は令和2年(2020年)4月下旬までを見込み、現在、工期延長の変更契約締結に向けて準備を進めており、ゴールデンウィーク前の供用開始を目指しているとのこと。



整備イメージ

委員会では、報告事項について了承されました。

2月25日、3月27日(協議会)開催  
審査した内容(議案4件、陳情3件、報告事項9件)

報告事項 鎌倉市にふさわしい博物館基本構想の素案について

鎌倉市にふさわしい博物館基本構想検討委員会を平成31年(2019年)3月から3回にわたり開催し、素案を作成したとのこと。その基本的な考え方として、「歴史的遺産と共生するまちづくり」を推進するため、鎌倉市全体を博物館として捉える「エコミュージアム(※)」を構築し、行政と市民の協力関係による運営を行うこととされています。エコミュージアムにおいては、既存の博物館等を「中核施設(コア)」、地域の文化財や施設等を「衛星施設(サテライト)」、施設間を有機的に結ぶ散策ルートを「発見の小径(ディスカバリートレイル)」として設定しますが、素案では、中核施設となる鎌倉国宝館および鎌倉歴史文化交流館の2館の連携を強化し、機能の拡充を図ることが示されています。今後は、今回示された素案を基本構想として確定させた後、基本計画、実施計画を策定し、令和4年度(2022年度)以降、順次、実施計画を実行していく予定とのこと。委員会では、報告事項について了承されました。

【用語の解説】※エコミュージアム エコロジー(生態学)とミュージアム(博物館)とをつなぎ合わせた造語であり、一定の地域に点在する歴史・文化・自然・産業等の遺産を現地において保存・管理し、その全体をミュージアムと捉え、運営していく仕組み

令和2年度一般会計予算等を審査  
一般会計予算を可決

1 予算関係議案の提案

2月13日に開催された本会議において、市長から令和2年度の市政運営に対する所信と施策概要の説明が行われ、一般会計予算、6特別会計予算など、令和2年度予算関係議案11件が提案されました。11件のうち、1件は同日開催の本会議において可決。主な内容は次のとおりです。

(予算総額)

一般会計および6特別会計の合計/1150億8312万7千円(前年度比2.2%の増)

(各予算規模)

一般会計/642億870万円(前年度比4.8%の増)

3 予算特別委員会審査(担当原局・理事者への質疑)

予算特別委員会では、3月13日から19日にかけて、付託された予算関係議案について、市長が所信表明で述べている予算の内容はどのようなものか、限られた財源の中で、第3次鎌倉市総合計画第4期基本計画実施計画に位置付けられた諸事業をはじめ、市民生活に密着した事業や重点的かつ政策的な課題・施策がどのように予算に反映されているかといった観点から担当原局に対し質疑を行いました。

4 予算特別委員会採決

付託を受けた令和2年度一般会計予算など10議案の採決を行いました。

5 審査結果の報告

3月25日の本会議において、予算特別委員長から審査結果が報告され、次の意見が付されました。

①危機管理能力および災害対策の強化について

現在、新型コロナウイルス感染症は世界的なパンデミックの状況下であり、そのような中、市民の生命・財産を守るためにも鎌倉市独自の危機管理能力を高めていく必要があるため、今回の危機事象をしっかりと捉えた上で、身に付けた危機管理能力を、今後必要な計画の策定に生かしていくことを求める。

②高齢者の外出支援について

高齢者の健康維持や趣味を見つけることにつながるためにも、外出の機会を増やすことは大事であるため、他市の事例も参考にしながら、今後も積極的に高齢者の外出支援サービスを行うべく、ことを求める。

③ごみ処理施策について

今後のごみ処理行政については、市民の信頼をしっかりと得た上で進めていくこと、また、責任あるごみ処理の方向性を確立していくよう求める。

④文化財の保存活用について

文化財は、公開・活用してこそ、その価値が高まること、また、鎌倉歴史文化交流館の紹介や実施中のイベントの映像を発信するなどにより、その魅力アップが図れること。また、鎌倉歴史文化交流館とともに市内に点在する文化財・施設等を「発見の小径」で結ぶエコミュージアムの実現においては、地域振興にとどまらず、その歴史的価値に鑑み、文化財の保護・保全につなげるよう求める。

6 本会議で採決

委員長報告の後、各派の議員および2名の無所属議員から、討論として、原案に対する賛否の意見が表明されました。その後、採決を行った結果、一般会計予算および国民健康保険事業、公共用地先行取得事業、後期高齢者医療事業の3特別会計予算は多数の賛成により原案を可決、大船駅東口市街地再開発事業特別会計予算、介護保険事業特別会計予算、下水道事業会計予算および3件の条例議案は総員の賛成により原案を可決しました。



予算特別委員会委員(議席順)

委員長	高野 洋一(日本共産党鎌倉市議会議員団)
副委員長	伊藤 倫邦(自由民主党鎌倉市議会議員団)
委員	志田 一宏(自由民主党鎌倉市議会議員団)
	武野 裕子(日本共産党鎌倉市議会議員団)
	前川 綾子(鎌倉みらい)
	河村 琢磨(鎌倉のヴィジョンを考える会)
	日向 慎吾(鎌倉夢プロジェクトの会)
	保坂 令子(神奈川ネットワーク運動・鎌倉)
	大石 和久(公明党鎌倉市議会議員団)
	山田 直人(鎌倉みらい)

また、3月23日は、施策の一部について市長への質疑を行い、鎌倉市のごみ処理計画についてや公共施設再編事業についてなどの見解をいただきました。

ハード面での対策についても地域住民との連携による可能性を追求することを求める。